

こいた 小板まきばの里通信Vol 7

～植物の名前の由来を調べてみよう～

小板まきばの里へようこそ。小板まきばの里は西中国山地国定公園内の南に深入山、北に臥竜山で挟まれた標高750mの山里、小板集落の一角にあります。2018年11月にこの地に移住してきたスタッフ2名が60年以上前に住人がいなくなり荒地と化した耕作放棄地を、この土地の自然の恵みを活用しながら手作りで開拓しています。このキャンプ場ならではの豊かな自然と波乱万丈の開拓現場の探索をお楽しみください。

■ キャンプ場周辺で秋の植物を探索しよう！



ミヤマママコナ



ヒヨドリバナ



タムラソウ



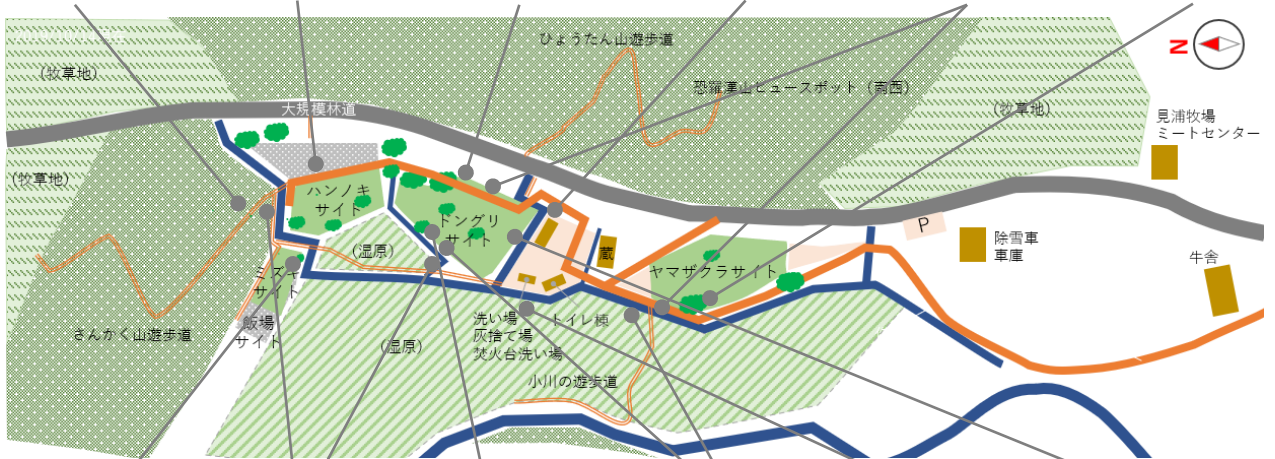
コバノガマズミ



ゲイホクアザミ



アケビ



アケボノソウ



メタカラコウ



キクアザミ



ゴマナ



ミゾソバ/
アキノウナギツカミ



ツノハシバミ
(ヘーゼルナッツの親戚)

■ 里山の自然観察 ～植物の名前の由来を調べてみよう～

標高が高い当キャンプ場周辺には一足早く秋がやってきます。9月は秋に咲く草花が冬が来る前に子孫を残そうと次々と咲いてキャンプ場を彩ります。洗い場の前にはピンク色のコンペイトウのようなかわいい花の花畑ができていますが、これはミゾソバとアキノウナギツカミの花です。ミゾソバは「溝に咲くソバに似た草」で見た通りの名前なのですが、アキノウナギツカミは「茎にびっしり生えている小さなトゲでぬるぬるするウナギでもつかめそう」という意味なのだとか。また三角山にたくさん咲いているミヤマママコナは、漢字では「深山飯子菜」と書きますが、「山に咲く、(下側の花びらに)飯子(ご飯粒)が引っ付いているような草」というのがその名の由来。誰が考えたのかは知りませんが、植物の特徴をよくとらえた名前だなあと感心します。面白い名前の植物に出会ったら、名前の由来を調べてみましょう。